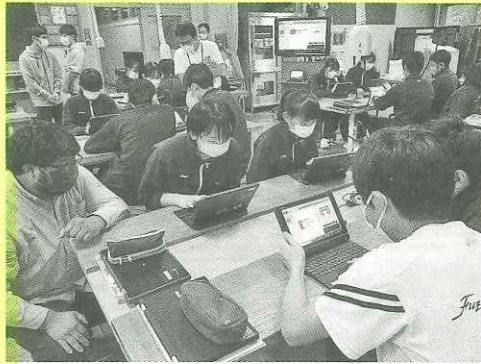


授業にコンテンツ競技

技術科で対戦型ゲーム制作

【函館発】道教育大学附

属函館中学校（中村吉秀校長）は4日、U-16プログラミングコンテンツの競技を取り入れた学習を技術科の授業で行った。民間企業の職員と大学生による指導のもと、3年生105人が1人1台端末を活用し、対戦型ゲームのプログラム制作に挑戦。物事を順序立てて考えるプログラミング的



1人1台端末でオリジナルのゲーム制作に取り組んだ

思考力を育んだ。授業は、技術科における単元「情報の技術」で実施した。講師には同コンテンツ函館大会の実行委員長で、(株)函館ラボラトリーのマネージャー中村拓也氏と公立はこだて未来大学の学生2人が来校した。

生徒は中村氏らによる指導のもと、1人1台端末を活用し、1対1の対戦型ゲーム「チェイサー」の制作および体験に取り組んだ。基盤目に区切られたステージで、双方に割り振られた

作成したプログラムに従って交互に動き「宝石」を集めて得るポイントを競うもの。ゲームのプログラム作成学校で取り入れるのは函館市内では初めてという。授業を見守った黒田諭副校長は「GIGAスクール構想の定着に伴い、様々なコンテンツが国や企業から提供されており、こうしたコンテンツの活用には民間企業の支援が不可欠。今後こうした取組が各校に広がれば」と期待を寄せた。

生涯学習推進センターと道教委3課

ネットで地学協働講座

13日と11月15日の2回開催

道立生涯学習推進センターは、13日と11月15日の2回にわたり「地学協働オンライン講座」を開催する。道教委社会教育課、高教教育課、義務教育課の3課との共催。社会に開かれた教育課程の実現や、地域と共にある学校づくりと学校を核とした地域づくりの推進に向けて、学校と地域の教育課題に対応した地学協働の実際

の取組事例や、学校が地域と連携することで生まれる子どもたちへの教育的効果と、地学協働を推進するための方策について理解を深めるもの。1回目は「地学協働を促すマネジメント力」先生方・保護者・地域住民をどう引き込むか」がテーマで対象は校長、副校長、教頭、主幹教諭、地域連携担当教職員、社会教育主事、

行政関係職員、地域学校協働活動推進員等。

4日から壮瞥町立壮瞥中学校と幕別清陵高校の事例発表をYouTubeでオンデマンド配信し、13日午後2時からズームで事例発表について意見交流。その

コロナに伴う道内学

前週比25校

高・特4週間